

大森山動物園情報誌

コミュニケーション

No.91

2016.3月号

Contents

- P2・3 園長あいさつ
こんにちは! あかちゃん
移動動物の紹介/訃報
飼育動物数
- P4・5 [特集1]
アートと動物園の融合
大森山 Arts & Zoo
- P6~8 [特集2]
サルの干支展
- P9 飼育レポート/動物病院から
広がりを見せる餌の支援
- P10 イヌワシ保護増殖事業の
確認証授与を受けて
- P10・11 イベントレポート
- P12 飼育日誌/かたばた通信

写真:人工育雛のシロフクロウ「ハク」。お客さまにより近くで見ていただけるよう、飼育員と一緒に練習中。

秋田市大森山動物園
あきぎんオモリンの森

こんにちは！

あかちゃん

8月以降に大森山動物園で生まれました



アカカンガルー

8月21日と9月27日にそれぞれ1頭ずつお母さんの袋から姿を見せました。子どもらしく、元気に展示場を走り回っています。カンガルーアイランドをご覧ください。



コモンマーモセット

11月21日に双子が生まれました。2015年は3回の出産があり、6頭の赤ちゃんが仲間入りしたことになります。とてもにぎやかなマーモセット家族です。



コクチョウ

11月28日から30日にかけて4羽のヒナが誕生しました。残念ながら冬の寒さで1羽しか残っていませんが、両親に寄り添い、すくすくと育っています。

このほか、釧路市動物園に購入したチンパンジーのゆみのすけに男の子が生まれたとのうれしい知らせも届いています。

園長あいさつ

園長 小松 守

雪国秋田で春を感じる一つに大森山動物園の開園があります。暖かさが増したお日さまと共に生き物が動き出し、春を待ちわびた人々も浮き浮きして動物園を訪れます。

動物園は言うまでもなく、多様な動物の「いのち」が生きる場所ですが、私はそれだけではなく、たくさんのお客さまという「いのち」が何かを思い、感じるため、動物との出会いを求めて集まる場所だと思います。そして動物を扱い、お客さまをお迎えするスタッフという「いのち」が控える場所でもあります。動物園はいろいろな「いのち」の集合体だと思います。

「動物と語らう森」をテーマに、人、動物、スタッフが心の通い合わせる場を探ってきましたが、昨年、その可能性を広げることを目的に秋田公立美術大学と連携し「大森山 Arts & Zoo」をタイトルに動物園アートギャラリー事業を展開、美大生がいのちを表現した作品制作と動物園展示を実践しました。動物園にアートという新たな感性の「いのち」が加わり、「いのち」の集合体はさらに成長したような気がします。

情緒的感情と知的頭脳がアンバランスになりがちな現代社会は、本能と理性のはざままで人がヒトという動物の延長にあることを忘れてしまいがちな時代のようにも思えます。時には動物が集まる雰囲気の中、動物、人と肩肘張らずにフランクに語らってみてはいかがでしょう。「動物と語らう森」の大森山動物園を今シーズンもどうぞよろしくお願いたします。

ヨロシクね！ 仲間入りしました



カリフォルニアアシカ

12月1日に愛媛県立とべ動物園からカリフォルニアアシカのアイラが嫁入りました。10ヶ月近く独身生活を満喫したマヤですが、お転婆なアイラに少々戸惑い気味のようです。早く赤ちゃんが産まれるといいですね。



アメリカビーバー

10月19日に東武動物公園からやって来ました。やって来た時は生後半年もたっていなかったのに、「小さくて可愛い」と思いきや、一丁前に威嚇などもして見せました。春になれば、仲間と一緒にビーバー舎のプールで元気に泳いでいる姿が見られます。

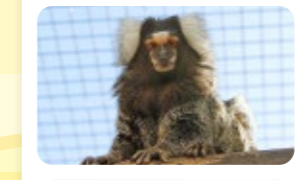
サンショクキムネオオハシ

アイラと同じ日に神戸市須磨海浜水族園からサンショクキムネオオハシのオオハシ君がやって来ました。大森山のコセンちゃんとペアにするため、借り受けたものです。コセンちゃんが地の利を活かしてか、かかあ天下ぶりを発揮しています。オオハシ君頑張れ!!



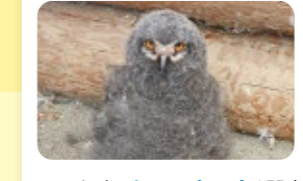
このほか、ヒナイドリ(オス1、メス2)やオスのホンドリスも仲間入りしました。

げんきでね！ 大森山を後にしました



コモンマーモセット

10月19日、コモンマーモセットのススキ君が神戸市立王子動物園に嫁入りしました。大森山のイツキババのように立派なお父さんになってもらいたいものです。

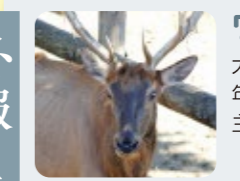


シロフクロウ、コクチョウ

10月20日、今年孵化したシロフクロウ1羽とコクチョウのポテトがピーパーとリスとの交換で東武動物公園に旅立ちました。(写真はシロフクロウのヒナ)

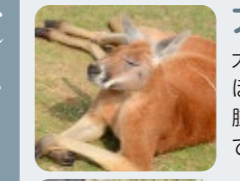
このほか、シロフクロウ1羽とチョウゲンボウ1羽が盛岡市動物公園に旅立ちました。

訃報
忘れないうよ...



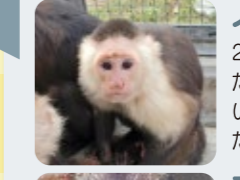
ワピチ オス

大きくて立派な角がトレードマークの個体でした。2004年に旭川市旭山動物園からやって来て、アソヴェの森の主のような存在で、多くのかたに愛されました。



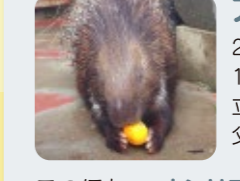
アカカンガルー トマノスケ/オス

大森山生まれで、群れでは立派なお父さんですが、色っぽい横座りなどアンバランスさが印象的でした。下顎を腫らすことがよくあり治療していましたが、最後は肺炎で亡くなりました。5歳でした。



ノジロオマキザル 陽太/オス

2011年6月に大森山で生まれました。お腹が膨らんできたため、8月に検査をしたところ、腫瘍があり、手が施せない状態でした。余生を家族と過ごさせるため群れに戻した2日後の9月27日に亡くなりました。早すぎる死です。

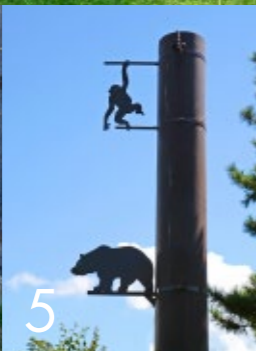


アフリカタテガミヤマアラシ リュウ/オス

2000年に奥さんのワヤとやって来ました。これまでに10頭の子どもが育ち、子どもたちは全国の動物園に旅立っています。子どもとのけんかにも容赦なく、強いお父さんでした。16歳の大往生でした。

このほか、ニホンリス、トナカイ、フンボルトペンギン、インドクジャク、ブロンズトキ、ホオアカトキ、ニホンザルが亡くなりました。

飼育動物数		
類	種数	点数
哺乳類	51種	323点
鳥類	39種	190点
は虫類	9種	27点
両生類	2種	3点
魚類	3種	24点
無脊椎動物	1種	16点
計	105種	583点



アートと動物園の融合

6-a 6-b

6-c



ポスター



トーク&コンサート

オープニングセレモニー

1 みなもと『minamoto』

■ピクニック広場

大きさの異なる3つの卵形の石彫刻を設置し、命のカクチを表現。実際に見て、触れて、考えることができる作品です。

2 you&zoo

■自動販売機コーナー屋上

コンクリートで殺風景だった屋上を緑に塗り替え、動物のオブジェやキリンやゾウの形の椅子を設置して心温まる空間にしました。

3 アニマーク

■園内各所

さまざまな形の足跡をその動物舎の周辺に配置し、動物の動きや習性を演出。実際に足跡を歩いてみて家族で楽しめる作品です。

4 『HANAKOTOBA』

■さるっこ森

花の形の伝声管を通して動物と会話ができる作品です。一生懸命動物との会話に花を咲かせる子どもたちがいました。

5 『MIMAMORI』

■鳥っこの水辺周辺

使われなくなった大きな鉄柱を活用し、動物のシルエットを設置。高い所から動物園を見守ってくれる作品です。

6-a Pop up Animals!

■資料館裏の壁面左側

トリックアートをテーマに園内の動物たちを描いた作品です。人と絵が一緒に写ることで完成するので、ぜひ絵の前で写真を撮ってください。

6-b 大森の芽吹き・ちえんずー!

■資料館裏の壁面右側

額から出たり入ったりしながら動物が姿を変えていくユニークな作品です。動物たちの生き生きとした姿が楽しめます。

6-c ラブ&ピース=アニマルズ

■マーコール横の壁面

動物園に来た家族が楽しく元気な気持ちになれるようにとの願いで描かれた、ポップで明るい作品です。

開催の経緯

大森山動物園(以下、動物園)と秋田公立美術大学(以下、美大)は、これまでもアクセス道路への動物イラスト看板の設置など、アートに関するさまざまな取り組みを共同で行ってきました。

今回、国民文化祭メモリアルフェスティバルとして、動物園とアート作品の融合を図る「大森山動物園アートギャラリー事業」を実施するため、動物園と美大は平成26年11月から協議を重ね、学生主体で作品を制作し、大学と動物園はそれをサポートするという方針に決定しました。

平成27年4月には学生が園内を見学して作品の構想を練り、6月には学生によるプレゼンテーションが行われ、実際に制作する6作品が絞り込まれました。

また、アートギャラリー事業を実施するためのプロジェクト名を「大森山Arts&Zoo」と決定し、学生デザインによるポスターが完成しました。鮮やかな色彩によるライオンの迫力あるポスターは、広報あきたの表紙を飾るなど、事業のPRに大きく貢献しました。

作品の制作

8月には、作品制作の第一弾として、美大生と美大附属高等学院生による壁画の制作が行われ、真夏の暑さの中、資料館の白い壁には今にも飛び出しそうな動物たちのトリックアートが、マーコール横の壁にはポップでカラフルな壁画が完成しました。

9月には、園内の道路や施設の屋上を利用した作品の制作が始まり、開催1週間前には、美大の工房で制作された作品や、学生のデザインを基に協力企業が加工した作品が次々と園内に設置されました。

開催本番となる9月19日には、大屋根広場でオープニングセレモニーが行われ、制作者の学生たちによる作品の解説付きで来園者と一緒に園内を巡りました。また、午後からはビクターセンター動物園エリアでトーク&コンサート「アートで語る動物たち」が開催され、Happy Toco(ピアノ:榎原光裕、ヴァイオリン:佐藤聡子)による演奏と小松園長、美大の藤教授による軽妙なトークで来園者を楽しませました。

9月19日~23日の開催期間中は、美大附属高等学院生や栗田養護学校生の作品も園内に展示されたほか、秋田市内の小学生や来園した子どもたちが描いた塗り絵がビクターセンターに飾られ、雰囲気盛り上げました。

今回、事業の開催に当たりご協力いただいた地域の皆さまをはじめ、作品素材の調達や作品の加工、運搬、設置等にご協力いただいた企業の皆さま、また、PRグッズの制作などにご協力いただいた企業の皆さまに感謝申し上げます。

「大森山Arts&Zoo」は、平成28年度も継続して実施する予定です。今年はどうなアート作品が制作され、来園者の目を楽しませてくれるか今から楽しみです。

大森山 Arts & Zoo

特集
1

2015年シルバーウィーク初日の9月19日、秋田公立美術大学の学生が中心となって制作したアート作品の展示が動物園で始まりました。前年、秋田で開催された国民文化祭のアフターイベントとして、動物園をアートギャラリーにしようという発想で始めたものです。テーマは「いのち(魂)の表現」。大学側と何度となく打ち合わせを行い、動物園と美大で結成されたプロジェクトが「大森山Arts&Zoo」でした。

新たな「いのち」が吹き込まれ、大森山が少しずつ変わっていくような予感がします。

壁画制作の様子





ワオキツネザル エリマキキツネザル コモンマーモセット ワタボウシタマリン ノドジロオマキザル ボリビアリスザル ニホンザル マントヒビ ダイアナモンキー チンパンジー カニクイザル サバンナモンキー フサオマキザル アビシニアコロブス

特集
2

サルの干支展

今年は申年です。「雪の動物園」の開園に合わせて干支展を開催しました。サルに関するパネル展を、サルの担当をしている職員が力を合わせて準備しました。ここではそのうちの一部、大森山動物園のサルたちにスポットを当てて紹介します。



いたずら猿 大森山にやって来る

大森山動物園のサル山には現在84頭のニホンザルが暮らしており、そのルーツは京都にあります。

大森山動物園のサルの歴史

大森山動物園では、アビシニアコロブス、タイワンザル、アカゲザルなど、42年間で20種類以上のサルの飼育経験があります。自然界に生息するサルの種類が約180種に分類されていますが、相当数を飼育してきたこととなります。現在、疾病予防などの理由で、海外との動物交流の制限が大きい時代です。飼育サルの種保存の重要性がますます高まっています。

開園当時の飼育サル		20年前の飼育サル		現在の飼育サル	
種名	頭数	種名	頭数	種名	頭数
クロクモザル	2	ワオキツネザル	3	ワオキツネザル	26
ジェフロイクモザル	1	コモンマーモセット	7	エリマキキツネザル	3
カニクイザル	2	ノドジロオマキザル	6	コモンマーモセット	16
マントヒビ	1	フサオマキザル	2	ワタボウシタマリン	3
サバンナモンキー	2	ボリビアリスザル	10	ノドジロオマキザル	10
ダイアナモンキー	2	ジェフロイクモザル	4	ボリビアリスザル	5
シロテナガザル	3	ニホンザル	63	ニホンザル	84
アジルテナガザル	1	マントヒビ	3	マントヒビ	1
チンパンジー	2	サバンナモンキー	2	ダイアナモンキー	2
		ダイアナモンキー	2	チンパンジー	6
		チンパンジー	5		

飼育員に聞いた!!
おもしろ! 驚き!
エピソード

チンパンジー
風邪をひいているのりに小児用のパファリンシロップを与えていると、隣の部屋のゆみのすけが、甘いパファリンシロップを飲みたいがため、「ゲホッ、ゲホッ...!」と仮病を使ってアピールしていました。
※ゆみのすけは現在、釧路市動物園に購入し、パパになりました。

エリマキキツネザル
清掃しているときキレイになった場所にわざわざ行って糞をしたり、自分のいる場所に来るのを狙って糞をしてきます。

ワタボウシタマリン
自分たちの餌(特にバナナ)を下に落として、同居しているホシガメたちとシェアしています。(カメの餌にバナナはありませんが、カメはバナナが好き)。ワタボウシタマリンの餌に小松菜はありませんが、食べたいときはホシガメの餌からもらっています。

コモンマーモセット
ポケットに入るのが好きなコモンマーモセット。飼育員の作業着の上着のポケットが人気ですが、1頭入るといっぱい。でもどうしても入りたい後続組は無理やり入ろうと試みて、さらに入りたいう1頭がポケット入り口にやって来て。そこからはどこの家庭でもよくある兄弟ゲンカの始まりです。

ダイアナモンキー
展示場と寝室の間にあるキーパー通路の上から飼育員が下を通るのを狙って、オンソッコを掛けてくることがあります。

ニホンザル
サル山の池の下はとても滑りやすく、それを利用して仔ザルがツルツル滑って遊んでいることがあります(本当に遊んでいるのかは分かりません)。猛ダッシュで走って来たサルが、ツルツルの上で四本足を直立にしてドヤ顔で滑っていたのを目撃しました。

ワオキツネザル
清掃中、何かと食べ物欲しがり飼育員の背中を引っ張って「食べ物クレー〜」とアピールしてきます。



その1
サル山づくりが計画され、展示するサルを探していた時、京都府の山間部にある宇治田原町で、畑を荒らすサルの捕獲計画が進められているという情報を得ました。そのサルを動物園に導入しようと、日本モンキーセンター指導の下、サル捕獲作戦を行うことになりました。



その2
捕獲作戦は、冬の餌がなくなる時期に山で餌付けが始まり、捕獲檻を作るための柱を少しずつ建て、時間をかけて囲いを作ってサルを馴らしていきました。



その3
数ヶ月後、サルたちは大きな檻の中で餌を探るようになっていました。捕獲用の檻は出入用の穴に落とし板が装置されていました。40頭くらいの群れが餌に夢中になり始めたころ、係員が落とし板をつり上げるロープを切断し、一瞬のうちに開けられていた穴を閉じました。



その4
こうして捕まえられたサルたちの中から、年齢や性別を見ながら選んだサル33頭が秋田に運ばれてきました。1981年の3月のことでした。

まめ知識 ニホンザルの 個体識別



個体識別は年に一度毎年行います。1頭1頭表情等が異なるので、顔や体の特徴を活かして個体識別できればいいのですが、数十頭もいると全ての個体を把握することが難しいため、道具を使って識別します。その日は飼育員総出でサル山に入り、全部のサルを部屋に追い込みます。サルも人も必死です。
大森山動物園ではかつてサルの顔と内股に入れ墨をして識別していましたが、入れ墨を入れる機械の調子が悪くなり、入れ墨が消えてしまうことが多くなったため、法律で定められた個体識別方法の一つであるマイクロチップに変えることにしました。

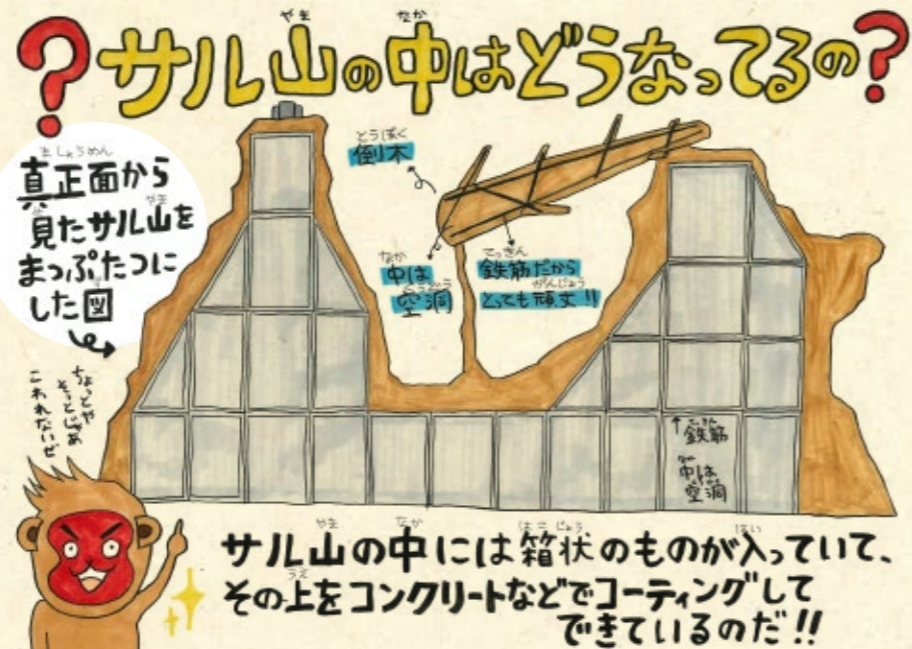
マイクロチップは一つとして同じ番号がないので、一度入れれば、その番号が一生そのサルの番号となります。チップは肩胛骨の間に太い注射針で埋め込み、針を抜いたら医療用の接着剤で穴を塞ぎます。埋め込んだマイクロチップは、読み取り機を使うと番号が表示され、それによって個体を識別することができます。
穴の塞ぎ方が不十分だとチップが落ちてしまったり、また、グルーミング(毛繕い)によって、最初に入れた位置からずれてしまうことがあり、番号を読み取るのもなかなか大変です。



サル山の秘密を探れ! 2016

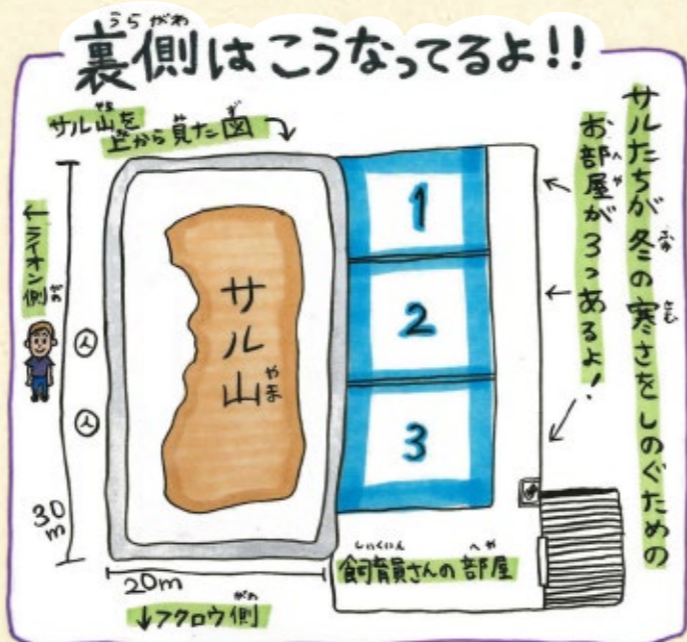


完成当初のサル山は現在のように自然木は入っていない状態でした。現在はサル山の前にサルスベリの木を植えたり、エサやり体験コーナーが設置されているなどの違いがあります。



サル山の中には箱状のものが入っていて、その上をコンクリートなどでコーティングしてできているのだ!!

どうしてサルはにげないの?

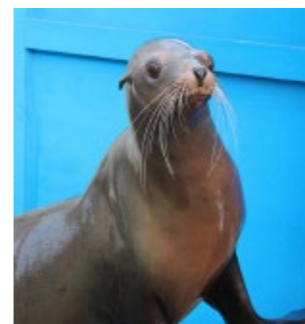


飼育レポート

アシカの受け入れ



飼育展示担当 千葉 可奈子



2015年1月。長年、大森山動物園で飼育していたメスアシカのスマコが他界し、マヤの新しいお嫁さんを探すことになりました。

とてもラッキーなことに、お嫁さんはすぐに見つかりました。マヤの新しいお嫁さんは愛媛県のとべ動物園から来ることになりました。お嫁さんの名前は「アイラ」です。

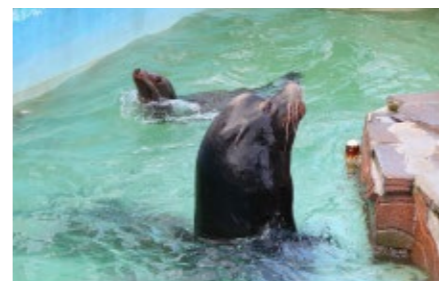
お嫁さんが決まり、喜んでばかりもいられません。アイラ受け入れのための準備作業が始まりました。初めて顔を合わせるもの同士、相性が良ければすんなり同居できるのかもしれませんが、せっかく来たお嫁さんとケンカしてお互いにケガでもしたら大変です。そのため、プールでもお見合いができるように、プールの途中に仕切りを設置することにしました。

いきなり見知らぬ物体が現れては、マヤがビックリしてしまうことも考え、プールの仕切り設置作業は一気には進めず、プール清掃時に落水するたびに少しずつ増設していきました。

アイラ受け入れを2週間後に控え、プールの仕切りが完成しました。

アイラが秋田に到着したのは12月1日。前日の11月30日にとべ動物園でケージに入り、トラックに乗って約1日をかけて、愛媛県からはるばる大森山までやって来ました。丸い大きな瞳が特徴的なかわいらしいお嫁さんです。到着した当日の夕方にすぐにアジを数匹食べ、翌々日にはプールに出て元気よく泳いでいました。お見合い期間を経て約1ヶ月。旦那さんのマヤとの相性も悪くはないようで、こちらの予想よりはるかに早く同居することができました。現在、2頭は仲良く日中はプールで泳ぎ、夜は寝室で寝ています。

年下のお嫁さんですが、アイラの方がちょっと強いようで、旦那のマヤは、早くもお嫁さんの尻に敷かれそうな勢いです。意外と相性の良さそうな2頭なので、2頭の子どもが見られる日はそう遠くないかもしれません。



動物病院から

ふれあい広場の飼育管理

獣医師 丸山 礼子



ふれあい広場にはウサギ、モルモット、ヨツユビハリネズミをはじめ、アヒルやニワトリ等の鳥類、カメやヘビ等の爬虫類、ミニブタ、ヤギ、ヒツジ、ポニー等の家畜等、計18種がいます。

診療は飼育数が多いためかウサギ、モルモットが中心です。群れで飼育している個体が多く、飼育管理する上で感染症やストレスのコントロールの難しさを感じています。

寒い冬は、結膜炎や鼻炎が頻発し、一時期点眼している個体が常にいる状態でした。症状を繰り返す個体が多く、すっきりと治してあげられないのが悔しいところです。

咬傷もたまにあります。放っておくと膿んでしまうため、発見するとすぐに消毒処置をします。新しく同居させる個体がいるときは闘争が増えるため、担当は特に注意が必要なようです。秋頃に担当が保温球の下で1匹だけいる個体を見つけ、調べてみると、体のあちこちに化膿した傷を負っていました。耳などと違い、傷が毛で覆われていたため発見が遅れてしまったと思われます。今では傷も治り元気なのですが、仲間のいる部屋に戻すと、またほかの個体に攻撃されてしまう恐れがあるため、個別収容を続けています。

ZOO information

広がりを見せる餌の支援



草木谷を守る会からの稲わら寄贈



大館市立南小学校からのさつまいも寄贈

餌は、動物園で暮らす動物たちにとって、とても重要なものです。野菜、果物、クルミ、ヒマワリの種などさまざまな餌をお客さまからの善意でいただいています。初めは、動物園近隣や市内にお住まいのかたからの寄贈でしたが、最近では、市外、県外にお住まいのかたからも支援をいただき、大変ありがたく、うれしく思います。その中で、自らの活動と重ね合わせて餌の支援をして下さるかたがたもいます。

まず、石川の里・草木谷で里山保全と八郎湖の環境再生プロジェ

クトを実施している「草木谷を守る会」の皆さまから寄贈していただいている稲わらがあります。これは、プロジェクトで「ゾウさん堆肥」を利用したお米を作り、収穫後の稲わらを寄贈していただいているもので、その稲わらは、ゾウのオス「だいすけ」、メス「花子」の飼料として毎日少しずつ食べさせています。おかげさまで、2頭とも元気に暮らしています。

また、秋田県大館市立南小学校の「さつまいも夢プロジェクト」の取り組みにより、10月に100kgを超えるさつまいもを寄贈して

いただきました。この取り組みは、同校の全児童が動物園にプレゼントするため、自分たちでさつまいもの苗を植え、育て、収穫まで行うものです。子どもたちにさらに頑張ってもらうため、同校に行き講演会も行いました。3回に分けて来園した子どもたちには、自分たちで持って来たさつまいもを使ってサル山の餌やりや裏側探検、ウサギなどとのふれあいを楽しんでもらいました。今回の取り組みには、地域の婦人会などの団体からヒマワリの種のプレゼントもあり、餌支援の広がりを実感しています。

イヌワシ 保護増殖事業の 確認証授与を受けて



大森山動物園が取り組むイヌワシの保護増殖の仕事について、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」に基づき、国が定める保護増殖事業計画に適合している旨が確認され、2015年10月3日、環境省から確認証の授与がありました。

当園のイヌワシ飼育は、前身である千秋公園の児童動物園の時代、1970年に秋田県の鳥海山麓で保護された2羽のイヌワシ(うちオスの1羽「鳥海」は2016年1月現在も健在)から始まっています。イヌワシの飼育を45年近く継続している動物園は全国的にも珍しいものです。現在のよう繁殖に至るまでには、さまざまな失敗なども経験しての技術開発や知見の蓄積があったからです。粘り強く、熱心に挑戦する素晴らしいスタッフの存在なくしてあり得ませんでした。

現在、当園は全国動物園のイヌワシ種別繁殖計画のコーディネーターを務めています。今回の授与を励みに、動物園のイヌワシの保護増殖の必要性を再認識し、飼育園と協力しながら、生息域内保全を補完する安定した個体群づくり、またイヌワシ理解に結びつく展示やその解説をより一層充実させていこうと気持ちを新たにしているところです。

園長 小松 守



イベント レポート

Event
Report

① 自然観察会 9月27日(日)

大森山動物園から大森山公園グリーン広場にかけて歩きながら、秋の植物や昆虫、野鳥を観察する「自然観察会」を開催しました。当日は天候にも恵まれ、参加者はドングリを拾ったり、フィールドビンゴで楽しんだりした後、拾ったドングリを動物園で飼育しているツキノワグマにあげて食べる様子を観察し、生息環境からそれぞれの役割(食物連鎖)について学びました。



ドングリを動物園で飼育しているツキノワグマにあげて食べる様子を観察し、生息環境からそれぞれの役割(食物連鎖)について学びました。

② 秋の動物ふれあいフェスティバル 10月11日(日)

大森山動物園の秋のイベント「秋の動物ふれあいフェスティバル」を開催しました。心配された天気は、午前中はなんとか持ちこたえ、人気のどうぶつパレードを予定通り実施しました。パレードでは、フンボルトペンギンなど6種類の動物に加えて、今回初めてフタコブラクダが参加。パレードの最後に登場した動物園で2番目に大きい動物のフタコブラクダが目を通ると、来園者からは大きな歓声が上がりました。

残念ながら昼から大雨となり、ウォークウイズのヒントを出すために登場した動物園のヒーロー「ミルヴェンジャー7」は、帰るお客さまを見送りながら肩を落としていました。



③ 秋フェスぞうさん特別編 10月12日(月・祝)

アフリカゾウの来園25周年を記念したイベントを開催しました。ゾウ屋外展示場に来園者と共に25種類の餌をケーキ風に盛りつけて、ゾウにプレゼント。25周年のエピソードを交えた解説も行いました。

また、「野生ゾウの未来と象牙を使った伝統文化の行方～象牙在庫処分の是非～」と題し、コンゴ共和国で長年アフリカゾウの調査や保全活動を行っている西原智昭氏に講演していただきました。野生ゾウの生活や象牙目的の密猟など、遠く離れた地域で起こっている問題について考えさせられる良い機会となりました。



④ 塩曳湧水生生物調査 10月17日(土)

園内にある天然沼(塩曳沼)で水生生物調査を実施しました。昨年に続き、市民ボランティアを募集し、子ども13名、大人10名の計23名が調査に参加。秋田淡水魚研究会と秋田県立新屋高等学校理科研究部に協力していただきながら、ボランティアの皆さんと一緒に地びき網や定置網を使った調査を行いました。今回は、希少魚類の1つであるゼニタナゴを採捕することができませんでしたが、参加者には、沼



に生息する貴重な魚への理解を深めてもらおうと同時に、大森山公園の自然の豊かさを実感してもらうことができました。

⑤ どうぶつサイエンス 11月15日(日)

自然科学学習館との共同企画の「どうぶつサイエンス」を開催し、子ども15名、大人8名の計23名が参加しました。今回のテーマは「耳のひみつをさぐる」です。参加者は、動物の耳の形がどうなっているのか、園内の動物をじっくり観察しながらスケッチしました。また、フクロウの耳を間近で観察すると、左右で耳の位置が違うことが分かり、びっくりしていました。最後は子どもたちだけでグループを作り、耳の形がなぜそうなのかをみんなで考えて、発表してもらいました。



⑥ さよなら感謝祭 11月29日(日)

お客さまと動物への感謝を込めて「さよなら感謝祭」を開催しました。セレモニーは、日新小学校吹奏楽部の演奏で始まり、今年亡くなったアムールトラなど17種63点の動物に慰霊の献花を行ったほか、動物園の運営に協力いただいたボランティアや学校の活動紹介、地域の学校の学生・生徒から動物園での思い出や、9月に開催した「大森山Arts&Zoo」での作品制作の感想などを発表してもらいました。最後に、高木美保名誉園長から大森山動物園の印象や名誉園長としての活動の感想などをお話いただき、参加者全員で「手のひらを太陽に」を合唱して閉会しました。



セレモニー終了後には、ゾウさん堆肥で作った農産物などの販売や、もちつき大会、ミルヴェンジャー7のステージショーなどが行われ、大勢のお客さままで賑わいました。

⑦ クリスマスイベント 動物園でクリスマスデート 12月23日(水・祝)

男女のカップルに閉園中の大森山動物園をクリスマスのデートスポットとして楽しんでいただき、すてきな思い出作りをしてもらおうと、「動物園でクリスマスデート」を開催しました。当日は12月とは思えないほど穏やかな天候となり、クリスマスの飾りで彩られた園内を29組58名の参加者は、おすすめの見学スポットなどが描かれたマップとウォークウイズの問題を手に、サル山のエサやりやトナカイのどうぶつ解説、オオカミのまんまタイムなどを楽しみました。



後半は、サンタも登場したビジターセンターでケーキや飲み物を食べながらウォークウイズの答え合わせを行い、トナカイやフクロウなど、動物たちとの記念撮影を行いました。雪の無い園内はカップルたちの寄り添う姿でますます暖かくなりました。



⑧ 雪の動物園

1月9日(土)～2月28日(日)の土・日・祝

大森山動物園の冬期開園「雪の動物園」を開催しました。11回目を迎え、大森山動物園の冬期開園としてすっかり定着した「雪の動物園」。今年も、寒さに強い動物が雪と戯れる光景や、厳しい寒さに耐え忍ぶ姿、部屋でぬくぬくと暖を取る様子など、動物個々の冬の過ごし方を見て、冬ならではの動物園をお楽しみいただきました。

期間中は、今年の干支「サル」にちなんだ干支展を開催。サルに関する歴史や豆知識のほか、大森山動物園で飼育している10種類のサルをパネルや写真で紹介しました。職員が描いた大森山動物園で暮らすサルの親子の顔出しパネルは、ご家族、カップル、友達、グループなど来園者に大好評でした。また、3園館連携の取り組みで鶴岡市立加茂水族館からミスクラゲを借りて展示しました。



⑨ ながいちウインターパーク 冬の移動動物園

2月6日(土)・7日(日)

秋田市中心市街地活性化のイベントとして毎年開催されている「ながいちウインターパーク」で「冬の移動動物園」を開催しました。中心市街地で動物園の動物を間近で見ることができ貴重な機会とあって、多くのかたにお越しいただきました。比較的天候にも恵まれ、2日間で合計1,763人が来場し、寒い冬ではありますが、会場は来場者と動物とのふれあいで笑顔あふれる、心温まる移動動物園となりました。



予告

通常開園 3月19日(土)スタート ※11月30日(水)まで





飼育日誌



8/2 **ノドジロオマキザル** 陽太♂ 開腹手術。
 8/3 **キリン** カンタ♂ 血圧・体温測定トレーニング実施。
 8/3 **ポニー** 斜歯改善作業実施。
 8/4 **ミニプタ** とん平 てんかん発作。
 8/7 **ゾウ** 暑さ対策で、2階ベランダから散水するが近寄らない。
 8/8 **オオカミ** シン♂ 夏毛が去年よりだいぶ白く変化。
 8/10 **ゾウ** ♀寝室壁にゾウの絵を描いた。収容時少し気にしていたが問題ないと思う。
 8/11 **カビバラ** 全身傷だらけで出血あり。穴が空いている部分もあり。発見時かなりショックの状態。
 8/16 **アカカンガルー** クミコの子(スミス)♂と判明。
 8/16 **ワピチ** ♀袋角が早くも抜け始めてきた。
 8/17 **チンパンジー** ほぼ全頭夜の動物園の影響で眠そうな目をしていた。
 8/18 **レッサーパンダ** 昨冬以降、久しぶりにナナ♀・ユウタ♀・ゆり♀を同居。
 8/19 **クジャク** 足環青♂ やや執拗に追い回してきて、スキあらば、跳び蹴りをしてくる。
 8/21 **ベニコングウインコ** 同居開始。
 8/22 **ゾウ** ジャンボスイカを1個(50kg程度のもの)を放飼場に設置。翌日サル山にも給餌。
 8/24 **シロフクロウ** ヒナ(展示場)4羽 採血・健康チェック。
 8/24 **アカコンゴウインコ** メレブ♀ 足紐新調。
 8/25 **アシカ** マヤ♂ 後鰭第IV指爪切り。
 9/2 **アシカ** マヤ♂ 倒立にかなり苦戦。
 9/5 **タンチョウ、コウノトリ** タンチョウペア2羽ともザリガニにかなり反応。コウノトリ ヒナAB ザリガニに驚く。
 9/6 **レッサーパンダ** ユウタ♂ 左目の白濁強くなっている。
 9/7 **ポリビアリスザル** ナツ 親の背中から降りて行動する範囲が広がってきている。
 9/11 **テン** ♀ 猛獣舎から小動物舎に移動。
 9/15 **シロフクロウ** ヒナ 姿が親とほぼ同じになり、性別は♂2♀2のようだ。
 9/19 **オオカミ** ジュディ♀ 冬毛目立ってくる。
 9/20 **シロフクロウ** ハク ジェス取り付け、繋留開始。
 9/24 **ラマ** アンナ♀ 初めて頭絡をつけることができた。
 9/24 **キョン** ♀ 袋角が少し剥がれ、角が露出してきている。
 9/26 **マーコール** 若♂ 展示場のロープに角が絡まり一時宙吊り状態になる。
 9/27 **イヌワシ** 月子 猛禽舎よりイヌワシ予備舎へ移動。
 10/2 **カンガルー** トマノスケ♂ 麻酔下で治療。
 10/13 **コモンマーモセット** ゆで卵を見て、群れ全体が興奮気味になる。
 10/14 **キリン** 舎内低温のため遠赤ヒーター使用。
 10/17 **チンパンジー** 全頭に、ゆで卵とおにぎり給餌。
 10/20 **イヌワシ** 千秋と風雅 健康チェック及び体重測定後同居。
 10/24 **アカカンガルー** カンガルーアイランドオープン。
 10/27 **トナカイ** 3頭同居実施。
 10/28 **シバヤギ** コハク♂ 去勢後、親子で予備寝室に収容。震えるが元気あり、採食確認。

11/2 **モモイロペリカン等** 食害対策で鳥類を越冬舎と病院へ移動する。
 11/3 **ポリビアリスザル** 夕方馬肉給餌。警戒音発しなかなか食べない。
 11/4 **イヌワシ** 第2ペアに巣材5本ほど投入。西目がすぐに反応。
 11/7 **サル山** 冬用に餌の量を増やす。
 11/7 **トナカイ** ルドルフ サクラを鳥っこの水辺に放飼(2頭同時は初)。
 11/8 **コーンスネーク** シャネル 目の白濁継続。(脱皮の兆候)
 11/12 **イヌワシ** (第1ペア)健康チェックおよび採血。(第1ペアのヒナ)マイクロチップ埋め込み実施。
 11/21 **フラミンゴ** 16:00に納倉の様子を来園者に見てもらおう。
 11/23 **イヌワシ** 第1ペアに巣材投入。
 11/24 **ポニー** 装蹄師による削蹄実施。
 11/25 **ゾウ** ♀ ターゲット棒で格子から耳を出させてみる(採血を想定)。♀ 採血。
 11/26 **チンパンジー** お湯とカリン酒100cc与える。
 11/27 **ラクダ** ♀ 発情。かなり痩せてきている。体臭がきつくなってきた。
 12/3 **サル山** 餌の入った風呂にお湯を入れる。2頭滑って風呂に落ちる。
 12/7 **タンチョウ** 鶴太郎♂・お市♀で求愛ダンスらしきものをしていた。
 12/8 **オオハシ** オオハシくん♂ 獣舎へ移動しお見合い。大きなトラブルなし。
 12/8 **ツキノワグマ** 全頭、朝一、室内で眠そうにして動き鈍い。
 12/9 **イヌワシ** (第2ペア)12:30頃、西目♀が受け入れる。確実な交尾ではないが、交尾行動確認。
 12/10 **ペンギン** 2015孵化個体トローバン埋込作業実施。翼帯落下個体群に翼帯付け。右黄黄青捕獲時、右側下顎嘴付け根付近、骨折。雁来♀ 体温測定モジュールのセンサー位置を上腕部に変更。
 12/12 **トナカイ** 冬ごもりに備えて、給餌量を減らして1頭あたりリンゴ2kg、甘藷500g給餌する。
 12/15 **ツキノワグマ** 鳥海♂ 健康チェック実施。
 12/16 **イヌワシ** 水戻しルーサン給餌。
 12/16 **キリン** ♀2匹とユズル♂ 病室4にて繁殖のため同居開始。
 12/17 **プレーリードッグ** ヒナ 隣のプールに入っていた。トラブルはなし。
 12/17 **コクチョウ** ♀ 陰部内のでき物は、良性的乳頭腫(パピローマ)とのことだった。
 12/18 **ゾウ** (第1ペア育雛ヒナ)隣のケージへ移動作業。冬ごもり開始。
 12/21 **イヌワシ** 夜間、アイラ♀室内に隔離し、マヤ♂を正面プール・室内への行き来を自由にさせる。
 12/21 **ツキノワグマ** 第1ペア1日を通して交尾が数回行われている様子。
 12/22 **イヌワシ** ヒナの身体つきが急にコクチョウらしくなった印象あり。
 12/22 **コクチョウ** マヤ♂アイラ♀ 昨晚同居状態となる。怪我はない様子。本日からそのまま同居とする。
 12/27 **アシカ** ♀ 陰部内のでき物は、良性的乳頭腫(パピローマ)とのことだった。
 12/29 **ゾウ** 2頭採血。♂久々に採血成功。
 12/29 **トナカイ** 砂を敷いてから室内利用率が高まった。
 12/30 **アシカ** アイラ♀ 夜間、寝室を乗り越えて再び♂と同居状態となる。
 12/31 **トナカイ** ♀の攻撃行動が弱まっている。そろそろ落角か。

かたばた通信 退職にあたって 飼育展示担当 松井 健

1974年3月に臨時職員として大森山動物園に入り、1987年に正職員に採用されました。その後4回の異動を繰り返し動物園だけで30年以上勤務させていただきました。私が入ったころは、飼育の職員は9人と少なく、一人が受け持つ動物も今と比べてかなり多かったのを覚えています。動物園で働き始めたころ、チンパンジーのポンタが先輩飼育員の背中におんぶされてよく散歩に来ていました。まだ3歳位の小さなチンパンジーでしたが、私を見つけると威嚇しながら追いかけて来て、逃げ回っていた記憶があります。今では大の親友です。その後、いろいろな動物を担当しました。ペンギンは当時、

巣材を与えると営巣して、卵を産むのですが、抱卵することもなく繁殖しませんでした。そのため、少し工夫して巣を作ってやると抱卵するようになり、ヒナがかえりました。しかし、今度は育雛をしませんでした。すぐに人工育雛に切り替えましたが、当時はまだ文献も少ない中で、試行錯誤をしながら無事に大きくすることができました。こんな繰り返していろいろな経験をしながら、今までやってきました。これも大森山動物園の先輩と私と一緒に働いてくださった同僚のおかげだと思い感謝しております。本当にありがとうございました。

